

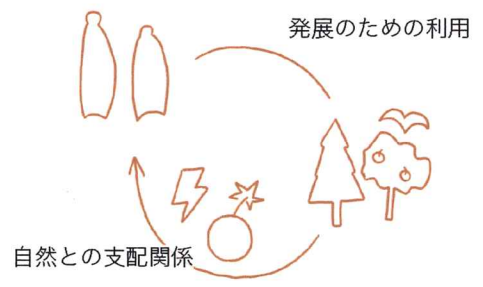


ひょうたんポケット

老若男女、自然を迎え入れるこれからの縁台

人新世の突入と、私たちと地球、自然。

21世紀に入り、地球は蒸し暑くて生物の生きづらい「人新世」という時代に突入した。人間の生活のために森林が伐採され、燃料となる化石が掘り尽くされている。近代以降、人間は自然を支配の対象として、自らの手の内に収めようとしてきた。環境が破壊される以前の状態には戻れなくなりつつある現代において、私たちは自然との関わり方を見つめ直す必要がある。



これからの縁が輪を考える。自然と縁台と人間。

21世紀、これからの地球に求められる「未来の縁が輪」とは、自然と人間が対等な関係として互いにつながり合う場所ではないだろうか。そして、人間と自然を連続させるツールとして、未来の縁台があるのではないか。

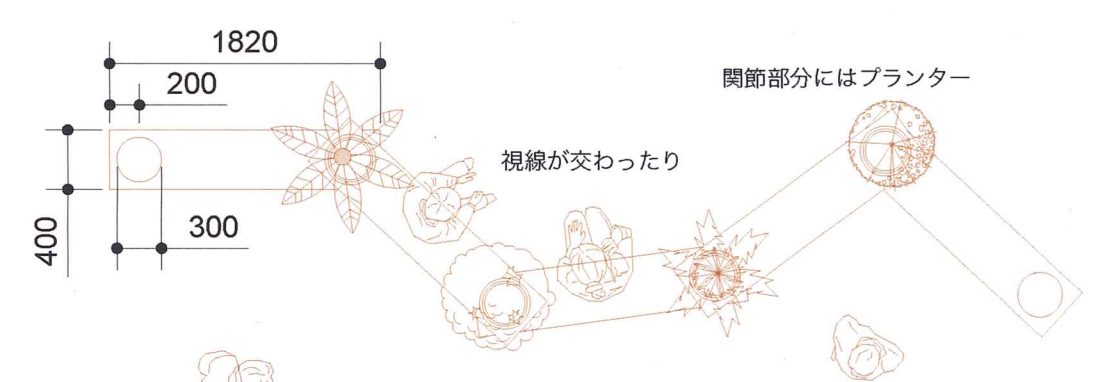


自然と向き合い、他人と繋がる。自然を介することで見えてくる関係性。

Operation

1. 天板を支える構造の大部分は、450*250 (450*275) で構成された加工杉材である。
 2. 杉板を図のように組み合わせる。
 3. 天板を上のにせる。
 4. 天板の両端に開けられた直径 300mm の円に、プランターを差し込む。
 5. プランターを差し込む際に、組み上げた他のユニットをドッキングさせる。
- 同一形状の加工杉の組み上げと、プランターによって、縁台自体の軽やかさ、組み上げ、撤収の容易さ、プランター接合部分を関節としたフレキシビリティが実現される。人は自然と隣り合わせに、今までにない距離感の中で未来の縁が輪は人と自然を迎え入れる。

平面計画



視線が交わったり、植物で遮られたり、植物との対話であるようで、人とのコミュニケーションであったり。人と自然の対等な関係は、思わぬ意識を抱かせる。

平面図 scale 1:50

人と自然が境界なく関わる未来の縁台である。

色々なひと。すっぽりとひょうたんポケットに。

30代 会社員
お昼休憩にコンビニでご飯を買ってからひょうたんポケットへ。お散歩がてら気分を入れ替えます。

20代 カップル
両国橋商店街でお昼ご飯を済ませて、カフェでコーヒーとテイクアウト。ひょうたんポケットで自然と人との関わりを楽しみます。

60代 友人同士
近くのお好み焼き屋さんで少し早めの晩御飯。夕方のゆっくりとしたひとときを、ひょうたんポケットで過ごします。
二児の子を持つママ
マルシェの帰り、一息つくためにひょうたんポケットへ。子どもたちはさまざまな方、自然と触れ合いながら成長していきます。

ひょうたんポケットは、自然、人々を優しく迎え入れる。まちの縁が輪として、これからの地球のための小さなながらも、大きなムーブメント。